

事務事業評価シート（1/2）

1頁
平成30年 8月 6日
17時23分26秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282020 ごみゼロ推進課ごみ減量係
事務事業 02748 環境保全協働推進事業

所属長名 近藤 一博
担当者 磯貝 洋之
電話番号 0566 76-3053

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	002	環境		
項目（施策）	001	3環境		
施策の方針	004	資源循環とごみ減量の推進		
事務事業	001	環境保全協働推進事業		
事業期間	平成 8年度 ~			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト	○	地方創生
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、安城市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例			
備考	市民からなるごみ減量推進委員会を設置し、ごみの再資源化及び減量化施策について協議しています。また、市民が主体となるごみ減量を促進する活動を支援しています。			

【事業分析】

対象	多くの市民が
目的	ごみ減量に関心を持ち、ごみ減量を協働で行えるようになります。
手段	市民、事業者、行政との協働によるごみ減量、資源循環型社会の推進を図るため、ごみ減量推進委員会を開催し、ごみ減量施策の調査、検討、構築を行うとともに市民活動を促進するため市民活動支援プログラムの運用、説明会等による啓発活動を実施します。ごみの再資源化を促進するため集団資源回収に対する報償金事業を実施します。
事務内容	ごみ減量推進委員会の設置、運用を行います。 住民説明会を開催し、周知をはかります。 集団資源回収報償金を支払います。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	32,734	38,658
事業費	0	28,954	34,878
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	0	28,954	34,878
人件費計	0	3,780	3,780
正規（人）	0.00	0.60	0.60
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		住民説明会等によるごみ減量、分別の啓発、市民活動支援プログラムによる活動	住民説明会等によるごみ減量、分別の啓発、市民活動支援プログラムによる活動

事務事業評価シート (2/2)

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282020 ごみゼロ推進課ごみ減量係
事務事業 02748 環境保全協働推進事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
住民説明会の参加人数	人	0.00	1,800.00	1,800.00
		0.00	1,808.00	0.00
市民活動支援プログラムによる活動	回	0.00	40.00	40.00
		0.00	41.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	他の事業主体が行うものではありません。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	ごみを減量し、良好な環境を保全することが求められます。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	目標に対し、概ね順調に推移しています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	資源回収による活動を支援しました。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	ごみ減量は市民協力が不可欠で他市も同様に取組を行っています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	今後も個人の環境に対する意識を高めるような啓発活動に努めます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282020 ごみゼロ推進課ごみ減量係
事務事業 02749 ごみ減量化推進事業

所属長名 近藤 一博
担当者 磯貝 洋之
電話番号 0566 76-3053

【基本情報】

計画回数	02 第8次安城市総合計画			
5Kの分類	002 環境			
項目（施策）	001 3環境			
施策の方針	004 資源循環とごみ減量の推進			
事務事業	002 ごみ減量化推進事業			
事業期間	平成1年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等				
備考	平成28年度の事務事業の見直しにより、平成29年度から以下の事業を統合しています。 ・ごみ減量化推進事業 ・ごみ減量教育事業			

【事業分析】

対象	啓発を受けた市民・子ども達が広く
目的	ごみ減量を始めた環境保全に対して関心をもつようになり、ごみ排出量が削減されます。
手段	環境学習をする小学4年生を対象に、施設見学とビデオによるごみ減量の必要性や環境教育のためのクリーンバス事業を実施するとともに、市民向けにはごみの発生抑制や分別の啓発、生ごみ処理機器の購入費用を補助しごみの減量と循環型社会を図る環境保全啓発活動を実施します。
事務内容	市指定ごみ袋の発注作成と生ごみ処理機の購入補助を行います。 住民説明会、クリーンバス事業、広報などによるごみ減量及び環境教育、環境保全の啓発を行います。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	75,397	114,266
事業費	0	68,467	107,336
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	68,467	95,086
一般財源	0	0	12,250
人件費計	0	6,930	6,930
正規（人）	0.00	1.10	1.10
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		<ul style="list-style-type: none"> ・広報等による減量啓発 ・住民説明会等によるごみ減量啓発 ・生ごみ減量講習（市主催） ・生ごみ処理機器の購入補助 ・市内小学4年生を対象としたクリーンバスの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報等による減量啓発 ・住民説明会等によるごみ減量啓発 ・生ごみ減量講習（市主催） ・生ごみ処理機器の購入補助 ・市内小学4年生を対象としたクリーンバスの実施

事務事業評価シート (2/2)

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282020 ごみゼロ推進課ごみ減量係
事務事業 02749 ごみ減量化推進事業

上段：目標値 下段：実績値

【定量評価】

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
住民説明会（街頭、店舗）等によるごみ減量啓発	回	0.00	15.00	15.00
		0.00	19.00	0.00
クリーンパスの実施	参加学校数	0.00	21.00	21.00
		0.00	21.00	0.00
乾燥生ごみ交換重量	k g	0.00	4,000.00	4,000.00
		0.00	4,137.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	他の事業主体が行うものではありません。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	ごみ減量と資源循環による環境保全が求められます。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	目標に対し、概ね順調に推移しています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	生ごみ処理機器設置補助の見直しなど事業費の削減に努めました。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	環境保全は市民協力が不可欠で他市も取組を行っています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	ごみ減量化については更なる市民協働の充実に努めるとともに、今後も啓発活動についてより効果的、効率的な手段・手法を研究します。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

5頁
平成30年 8月 6日
17時23分26秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282020 ごみゼロ推進課ごみ減量係
事務事業 02750 地域環境美化事業

所属長名 近藤 一博
担当者 小林 美智子
電話番号 0566 76-3053

【基本情報】

計画回数	02 第8次安城市総合計画			
5Kの分類	002 環境			
項目（施策）	001 3環境			
施策の方針	005 環境学習及び環境配慮行動の促進と支援			
事務事業	003 地域環境美化事業			
事業期間	平成1年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業	しくみづくり	マニフェスト	○	地方創生
根拠法令等	安城市ポイ捨て及びふん害の防止に関する条例			
備考	春と秋に「町を美しくする運動」事業を実施し、環境美化を推進します。また、道路や河川等を定期的に清掃するボランティア団体の活動を支援します。			

【事業分析】

対象	広く市民が
目的	地域環境の美化のため自主的に清掃活動に参加するようになります。
手段	地域環境美化のため、アダプトプログラム制度の推進や地域クリーン推進員の養成を通じ、環境美化活動の啓発支援を行います。
事務内容	町内一斉清掃、アダプトプログラム、530運動の活動支援を行います。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	6,821	7,418
事業費	0	3,041	3,638
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	0	3,041	3,638
人件費計	0	3,780	3,780
正規（人）	0.00	0.60	0.60
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		町内一斉清掃、アダプトプログラム、530運動などボランティア活動の募集及び啓発、地域クリーン推進員の養成研修会の開催、ポイ捨て等防止啓発キャンペーンの実施	町内一斉清掃、アダプトプログラム、530運動などボランティア活動の募集及び啓発、地域クリーン推進員の養成研修会の開催、ポイ捨て等防止啓発キャンペーンの実施

事務事業評価シート (2/2)

6頁
平成30年 8月 6日
17時23分26秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282020 ごみゼロ推進課ごみ減量係
事務事業 02750 地域環境美化事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
アダプト団体登録数	団体数	0.00 0.00	54.00 55.00	55.00 0.00
「町を美しくする運動」活動実施数	回	0.00 0.00	200.00 218.00	200.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	他の事業主体が行うものではありません。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	健全な暮らしをするために地域環境美化は必要です。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	目標に対し、概ね順調に推移しています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	効率的な事業運営をしています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	環境美化は市民一人一人の協力が必要で他市も取り組んでいます。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	「安城市ポイ捨て及びふん害の防止に関する条例」と「安城市さわやかマナーまちづくり条例」の整合性を図りつつ、今後も効果的な手法を研究します。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

1頁
平成30年 8月 6日
17時23分44秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02751 塵芥収集事業

所属長名 近藤 一博
担当者 神谷 昌信
電話番号 0566-76-3053

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	002	環境		
項目（施策）	001	3環境		
施策の方針	004	資源循環とごみ減量の推進		
事務事業	003	塵芥収集事業		
事業期間	平成1年度～			
実施方法	一部委託			
会計区分	一般会計	事業区分	義務的／政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、安城市廃棄物の減量と適正処理に関する条例			
備考	家庭から排出される可燃ごみ、不燃ごみ、プラスチック製容器包装ごみ、びん、缶、古紙、古着等を分別収集し、地域の環境美化を促進するとともにごみの資源化を図ります。 ペットボトルの拠点回収及び粗大ごみの有料収集を行います。			

【事業分析】

対象	市民が
目的	ごみを分別して出すことができるようになる
手段	びん缶、ペットボトル等の収集を直営業務とし、可燃・不燃・容器包装プラごみ及び古紙古着の収集を委託業務としています。
事務内容	日常生活から出るごみ（可燃・不燃・容器包装プラごみ・資源ごみ）を収集しています。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	627,683	626,491
事業費	0	464,954	472,771
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	12,233	12,652
一般財源	0	452,721	460,119
人件費計	0	162,729	153,720
正規（人）	0.00	25.83	24.40
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		可燃ごみ28,911t、不燃ごみ902t、容器包装プラごみ1,156t、缶357t、びん1,173t、古紙・古着1,197tを収集しました。	可燃ごみ29,249t、不燃ごみ843t、容器包装プラごみ1,090t、缶341t、びん1,168t、古紙・古着1,147tを取集します。

事務事業評価シート (2/2)

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02751 塵芥収集事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
容器包装プラスチックごみの資源化率	%	0.00 0.00	95.00 99.70	95.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	廃掃法に規定された市の責務を履行します。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	家庭ごみを簡便に、低廉に処分を求める意向が認められます。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	目標を上回る成果を上げられました。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	効率化に向けた収集体制の改編を31年度に実施します。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	20%減量以降、先取、先進的な取り組みを行っています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続 一般廃棄物の処分は、市に責務が存する法令事務であり、合理化、効率化を念頭に着実に遂行します。
1次コメント (400文字)	

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施 本事業においては、2次評価を実施していません。
2次コメント (400文字)	

事務事業評価シート（1/2）

3頁
平成30年 8月 6日
17時23分44秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02752 不法投棄対策事業

所属長名 近藤 一博
担当者 神谷 昌信
電話番号 0566-76-3053

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	002	環境		
項目（施策）	001	3環境		
施策の方針	004	資源循環とごみ減量の推進		
事務事業	004	不法投棄対策事業		
事業期間	平成1年度～			
実施方法	一部委託			
会計区分	一般会計	事業区分	義務的／政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、安城市廃棄物の減量と適正処理に関する条例			
備考	不法投棄監視カメラを4ヶ月単位で、設置を希望する町内会に貸出しを行いました。 不法投棄パトロールの実施による事案抑制に努めました。 特定家電リサイクル法に基づく処理をしました。			

【事業分析】

対象	不法投棄された場所の近隣住民が
目的	不法投棄ごみのない快適な環境で生活できる。
手段	町内会への不法投棄防止用監視カメラの貸与事業、不法投棄パトロール業務及び不法投棄物の処分業務を実施します。
事務内容	監視カメラを設置して不法投棄の抑制を図るとともに、不法投棄され処理に困っている特定家電5品目、消火器及び自動車のタイヤ等を処理します。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	5,642	6,958
事業費	0	5,012	5,698
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	0	5,012	5,698
人件費計	0	630	1,260
正規（人）	0.00	0.10	0.20
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		監視カメラ17台を4ヶ月単位（継続あり）で27町内会に貸出ししました。不法投棄監視パトロールの実施による事案抑制に努めました。	視カメラ18台を4ヶ月単位で設置を希望する町内会に貸出しを行います。不法投棄監視パトロールの実施による事案抑制に努めます。

事務事業評価シート (2/2)

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02752 不法投棄対策事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
家電5品目の不法投棄台数(指定引取場所搬入台数)	台	0.00 0.00	150.00 130.00	150.00 0.00

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	公共用地の管理責任に基づいて行います。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	良好な地域環境の維持と不法投棄抑止に寄与します。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	マナー向上が漸進しつつあると認められます。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	町内会との連携強化に努めています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	先進的な事業と認められます。		

【1次評価結果】	
事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	市民意識の向上を図るための啓発事業を行う一方、不法行為者への監視と警告、摘発を行っていきます。

【2次評価結果】	
事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

5頁
平成30年 8月 6日
17時23分44秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02753 資源再生化事業（中間処理等事業）

所属長名 近藤 一博
担当者 神谷 昌信
電話番号 0566-76-3053

【基本情報】

計画回数	02 第8次安城市総合計画			
5Kの分類	002 環境			
項目（施策）	001 3環境			
施策の方針	004 資源循環とごみ減量の推進			
事務事業	005 資源再生化事業（中間処理等事業）			
事業期間	平成 9年度 ～			
実施方法	一部委託			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、安城市廃棄物の減量と適正処理に関する条例 プラスチック製容器包装、ペットボトル等資源ごみのリサイクルを行います。			
備考				

【事業分析】

対象	将来の市民が
目的	地球環境破壊や資源枯渇から救われる一助となる。
手段	拠点回収したペットボトルは、資源化センターにおいて、またごみステーションで収集したプラスチック製容器包装は、安城プラスチックリサイクルセンターで圧縮減容化処理します。これら中間処理したものは、資源リサイクル事業者により再生化しています。
事務内容	回収されたペットボトルや容器包装プラごみの資源化を行います。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	120,598	98,440
事業費	0	118,708	95,290
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	14,601	14,600
一般財源	0	104,107	80,690
人件費計	0	1,890	3,150
正規（人）	0.00	0.30	0.50
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		ペットボトル429t、容器包装プラごみ1,156tを収集、再生処理しました。	ペットボトル401t、容器包装プラごみ1,090tを収集、再生処理します。

事務事業評価シート（2/2）

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02753 資源再生化事業（中間処理等事業）

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ペットボトルの選別処理量	t	0.00	455.00	401.00
		0.00	429.00	0.00
容器包装プラスチックの圧縮梱包処理量	t	0.00	1,200.00	1,090.00
		0.00	1,156.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1 必要性	国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	廃掃法・リサイクル法に規定された市の責務を履行します。		
2 必要性	市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	資源ごみを手軽に、低廉に処分を求める意向が認められます。		
3 有効性	目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	目標値比較で4.2%抑制できました。		
4 効率性	事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	資源の売払い先など、経済性と適正処分の確保に心がけています。		
5 公平性	事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	同種事業を行っている団体との情報交換に努めています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	持続可能な循環型社会の構築に資源再生の取り組みは欠かせないものと認識します。ただし経済性、効率性、省エネルギー化の観点と整合を図る必要があります。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

7頁
平成30年 8月 6日
17時23分44秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02754 リサイクルプラザ施設管理事業

所属長名 近藤 一博
担当者 神谷 昌信
電話番号 0566-76-3053

【基本情報】

計画回数	02 第8次安城市総合計画			
5Kの分類	002 環境			
項目（施策）	001 3環境			
施策の方針	004 資源循環とごみ減量の推進			
事務事業	006 リサイクルプラザ施設管理事業			
事業期間	平成10年度～			
実施方法	全部委託			
会計区分	一般会計	事業区分	経常的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、安城市廃棄物の減量と適正処理に関する条例			
備考	搬入されたあるいは、収集した不燃ごみ、粗大ごみ、びん缶を中間処理することにより、資源ごみの分別・再資源化を行い、併せてごみの減量化を図ります。			

【事業分析】

対象	市民が
目的	ごみを適正に処理することができる。
手段	不燃ごみ、粗大ごみの破砕処理を行うとともに、資源物を抽出し再生、再利用を図り資源循環型社会形成に寄与します。
事務内容	市民が排出又は持ち込んだごみを受け入れ、適正に処理できるように施設を維持管理・運営します。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	318,359	309,807
事業費	0	301,349	292,167
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	23,415	25,285
一般財源	0	277,934	266,882
人件費計	0	17,010	17,640
正規（人）	0.00	2.70	2.80
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		不燃粗大ごみ3,252t びん・缶1,531tを破砕・減容、分別し中間処理を行いました。	不燃粗大ごみ3,143t びん・缶1,509tを破砕・減容、分別し中間処理を行います。

事務事業評価シート（2/2）

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02754 リサイクルプラザ施設管理事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
苦情件数	件	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	廃掃法・リサイクル法に規定された市の責務を履行します。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	資源ごみを手軽に、低廉に処分を求める意向が認められます。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	苦情は受けていませんでした。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	合理性・経済性に留意しつつ、設備老朽化対応に努めています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	搬入量に対し、処理能力に大きな過不足は認められません。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	持続可能な循環型社会の構築にごみ減量化、資源再生の取り組みは欠かせないものと認識します。ただし経済性、効率性、省エネルギー化の観点と整合を図る必要があります。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02755 せん定枝リサイクルプラント事業

所属長名 近藤 一博
担当者 神谷 昌信
電話番号 0566-76-3053

【基本情報】

計画回数	02 第8次安城市総合計画			
5Kの分類	002 環境			
項目（施策）	001 3環境			
施策の方針	004 資源循環とごみ減量の推進			
事務事業	007 せん定枝リサイクルプラント事業			
事業期間	平成13年度～			
実施方法	全部委託			
会計区分	一般会計	事業区分	経常的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、安城市廃棄物の減量と適正処理に関する条例			
備考	果樹や街路樹のせん定枝を粉碎処理を行い、これを半年間発酵させ土壌改良効果のあるたい肥を製造し、農家をはじめ市民に配布しています。			

【事業分析】

対象	農業経営を行う市民や園芸を楽しむ市民が
目的	たい肥を利用した農業・園芸を行うことができるようになる
手段	市民が搬入したせん定枝を粉碎し、醗酵たい肥化を行います。
事務内容	剪定した枝葉をごみとして焼却するのではなく、自然還元による資源循環のためたい肥を製造して市民等に配布します。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	70,316	79,132
事業費	0	54,566	61,492
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	11,170	12,000
一般財源	0	43,396	49,492
人件費計	0	15,750	17,640
正規（人）	0.00	2.50	2.80
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		せん定枝1,270tを処理、たい肥969tを配布しました。	せん定枝1,500tを処理、たい肥1,000tを配布します。

事務事業評価シート（2/2）

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02755 せん定枝リサイクルプラント事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
剪定枝葉処理量	t	0.00 0.00	1,500.00 1,270.00	1,500.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	2
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市外の民間事業者へ処理委託の方途があります。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	たい肥の配布希望者が、常に抽選を要するほど多数です。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	2
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	設備不具合で、処理不能期間が通算で約1月間ありました。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	合理性・経済性に留意しつつ、設備の適正運用に努めています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	近隣では豊田市に同種施設があり、同等の水準と思われます。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	持続可能な循環型社会の構築にバイオマスの資源化による活用は欠かせないものと認識します。 ただし経済性、効率性、省エネルギー化の観点と整合を図る必要があります。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

11頁
平成30年 8月 6日
17時23分44秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02756 最終処分場事業

所属長名 近藤 一博
担当者 神谷 昌信
電話番号 0566-76-3053

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	002	環境		
項目（施策）	001	3環境		
施策の方針	004	資源循環とごみ減量の推進		
事務事業	008	最終処分場事業		
事業期間	平成21年度～平成41年度	21	年間	
実施方法	一部委託			
会計区分	一般会計	事業区分	義務的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、安城市廃棄物の減量と適正処理に関する条例			
備考	埋立ごみ再生化事業が平成20年度に完了したことにより、2049年度（平成61年度）までの長期供用を念頭に、埋前一般廃棄物最終処分場は、リサイクルプラザから発生する不燃残さに限って埋め立てをしています。			

【事業分析】

対象	市民が
目的	排出したごみの最終処分先になる
手段	市内唯一の埋立最終処分場として、埋立量の極小化に留意しつつ、破碎した不燃残渣のみを埋立しています。
事務内容	リサイクルプラザから出る処分できない埋立ごみ（不燃残渣）の処分場です。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	45,177	38,166
事業費	0	38,877	31,866
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	0	38,877	31,866
人件費計	0	6,300	6,300
正規（人）	0.00	1.00	1.00
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		搬入量628t（容量換算897m ³ ）の不燃残さを埋立処分しました。	搬入見込み量722t（容量換算1,031m ³ ）の不燃残さを埋立処分しません。

事務事業評価シート（2/2）

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02756 最終処分場事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
最終処分場埋立量	t	0.00 0.00	850.00 628.00	722.00 0.00

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	2
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市境を越えて最終処分先を求めることは、極めて困難です。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	市境を越えて最終処分先を求めることは、極めて困難です。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	埋立量の抑制が図られています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	今後埋立処分場設置は、困難なため長期供用に配慮します。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	人工面積がほぼ100%の本市と他団体との比較は、困難です。		

【1次評価結果】	
事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	埋立量を抑制し、でき得る限り長期間供用していきます。

【2次評価結果】	
事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

13頁
平成30年 8月 6日
17時23分44秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02757 資源リサイクル事業

所属長名 近藤 一博
担当者 神谷 昌信
電話番号 0566-76-3053

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	002	環境		
項目（施策）	001	3環境		
施策の方針	004	資源循環とごみ減量の推進		
事務事業	009	資源リサイクル事業		
事業期間	平成14年度～			
実施方法	一部委託			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、安城市廃棄物の減量と適正処理に関する条例			
備考	<p>家庭から排出される、リサイクル可能な資源ごみの分別を促進するため、気軽に、身近に利用できる回収拠点を設けるため、市内6箇所でリサイクルステーションを設置しています。</p> <p>リユースを促進するため月1回、リサイクルプラザで家具再生の入札販売事業を行います。</p> <p>古紙・古着を地域のごみステーション（資源ステーション）で収集しています。</p>			

【事業分析】

対象	広く市民が
目的	ごみの再資源化に関心を持ち分別するようになる。
手段	市内6箇所のリサイクルステーションを設置し、運営をシルバー人材センターに業務委託を行い、市民の利便性に配慮し、資源ごみの分別促進を図ります。 リサイクルプラザに搬入された再生可能な粗大ごみを再使用させるため、修復し販売します。
事務内容	ごみの再資源化を促進するために、リサイクルステーションの設置及び、粗大ごみとして排出された家具等の再生販売を実施します。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	30,852	32,443
事業費	0	27,702	29,293
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	14,835	17,000
一般財源	0	12,867	12,293
人件費計	0	3,150	3,150
正規（人）	0.00	0.50	0.50
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		リサイクルステーション資源回収量3,178t、古紙・古着資源ステーション収集量1,197tをリサイクルしました。	リサイクルステーション資源回収量3,366t、古紙・古着資源ステーション収集量1,147tをリサイクルします。

事務事業評価シート（2/2）

14 頁
平成30年 8月 6日
17時23分44秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282210 ごみゼロ推進課清掃事業所事業係
事務事業 02757 資源リサイクル事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
リサイクルステーションの回収量	t	0.00 0.00	3,590.00 3,178.00	3,366.00 0.00

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	2
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	資源循環の行動を市民に促すため、市の働きかけが必要です。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	限られた資源を有効に活用する必要があります。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	2
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	新聞・雑誌など紙媒体のメディアが減少しています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	利用促進のため利便性の周知に努めています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	近隣地域においては、比較的先進的に取り組んでいます。		

【1次評価結果】	
事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	リサイクル・リユースの取組みは、市民に受け入れやすく、環境施策として有効です。

【2次評価結果】	
事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

1頁
平成30年 8月 6日
17時23分58秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282410 ごみゼロ推進課環境クリーンセンター施設係
事務事業 02758 ごみ焼却施設管理事業

所属長名 近藤 一博
担当者 宮本 宗明
電話番号 0566-92-0178

【基本情報】

計画回数	02 第8次安城市総合計画			
5Kの分類	002 環境			
項目（施策）	001 3環境			
施策の方針	004 資源循環とごみ減量の推進			
事務事業	010 ごみ焼却施設管理事業			
事業期間	平成 9年度 ~			
実施方法	一部委託			
会計区分	一般会計	事業区分	経常的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律			
備考				

【事業分析】

対象	市民が
目的	可燃ごみを安心して処理できる
手段	ごみ焼却施設の運転管理及び施設の保全と施設整備をします。また、適正な保守点検や計画的な工事を実施することで施設の健全性を維持します。
事務内容	収集などにより搬入された可燃ごみを適正に処理できるよう、施設を維持管理・運営します。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	1,141,107	1,382,603
事業費	0	1,118,427	1,359,923
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	285,177	345,200
一般財源	0	833,250	1,014,723
人件費計	0	22,680	22,680
正規（人）	0.00	3.60	3.60
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		可燃ごみ50,355tを焼却処理しました。	可燃ごみ51,000tを焼却処理します。

事務事業評価シート (2/2)

2頁
平成30年 8月 6日
17時23分58秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282410 ごみゼロ推進課環境クリーンセンター施設係
事務事業 02758 ごみ焼却施設管理事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
施設の故障による可燃ごみ搬入停止	回	0.00	0.00	0.00
		0.00	0.00	0.00
法規制値を超える排気ガスの排出	回	0.00	0.00	0.00
		0.00	0.00	0.00

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	廃掃法で市が行う事業として定められています。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	すべての市民が必要とする事業です。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	可燃ごみを適正に焼却処理しています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	処理に必要な薬剤の適正管理を行っています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	近隣市と同等の水準です。		

【1次評価結果】	
事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	今後も適切な保守管理及び計画的な工事を実施することで、施設の処理能力や安全性を確保します。

【2次評価結果】	
事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

3頁
平成30年 8月 6日
17時23分58秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282410 ごみゼロ推進課環境クリーンセンター施設係
事務事業 02759 ごみ焼却灰処分事業

所属長名 近藤 一博
担当者 宮本 宗明
電話番号 0566-92-0178

【基本情報】

計画回数	02 第8次安城市総合計画			
5Kの分類	002 環境			
項目（施策）	001 3環境			
施策の方針	004 資源循環とごみ減量の推進			
事務事業	011 ごみ焼却灰処分事業			
事業期間	平成 9年度 ~			
実施方法	一部委託			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律			
備考	平成28年度の事務事業の見直しにより、平成29年度から以下の事業から名称変更しています。 ・ごみ焼却灰溶融化事業			

【事業分析】

対象	市が
目的	処分先の環境を阻害することなく、焼却灰を処理できる。
手段	本市は、焼却灰の最終処分場を所有していないことから、発生した焼却灰全てを市外に運搬・処分しています。処分先としましては、公益財団法人愛知臨海環境整備センター（アセック）や民間の最終処分事業者です。また、焼却灰の一部については再資源化処理としています。
事務内容	処分場を所管している相手方自治体と調和の協議を行い、安全かつ適正に処理を実施します。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	149,392	148,287
事業費	0	148,762	147,657
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	0	148,762	147,657
人件費計	0	630	630
正規（人）	0.00	0.10	0.10
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		<ul style="list-style-type: none"> ・アセック埋立量 4,871.92 t ・その他民間埋立量 499.99 t ・再資源化量 1,015.60 t 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセック予定埋立量 5,700 t ・その他民間予定埋立量 400 t ・予定再資源化量 500 t

事務事業評価シート（2/2）

4頁
平成30年 8月 6日
17時23分58秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282410 ごみゼロ推進課環境クリーンセンター施設係
事務事業 02759 ごみ焼却灰処分事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
焼却灰の処分先	箇所	0.00	3.00	4.00
		0.00	3.00	0.00
焼却灰の資源化率	%	0.00	15.00	7.58
		0.00	15.90	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	焼却後に発生する焼却灰は適正に処分する必要があります。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	焼却灰の処分場を持たない自治体の市民にとって必要な事業です。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	埋立基準を満たし、適正に灰処分できています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	コスト面以外に災害発生時のリスク分散を考慮しています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	独自の埋立処分場を持たない近隣市と同等の水準です。		

【1次評価結果】

事業の方向性	拡充
1次コメント (400文字)	災害時のリスク分散を考えた場合、今後も複数の処分先を検討する必要があります。また、環境負荷低減のための再資源化についても引き続き検討していきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

5頁
平成30年 8月 6日
17時23分58秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282410 ごみゼロ推進課環境クリーンセンター施設係
事務事業 02760 し尿処理施設管理事業

所属長名 近藤 一博
担当者 丸尾 秀宣
電話番号 0566-92-0178

【基本情報】

計画回数	02 第8次安城市総合計画			
5Kの分類	002 環境			
項目（施策）	001 3環境			
施策の方針	004 資源循環とごみ減量の推進			
事務事業	012 し尿処理施設管理事業			
事業期間	昭和63年度～			
実施方法	全部委託			
会計区分	一般会計	事業区分	経常的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律			
備考				

【事業分析】

対象	し尿処理施設を利用している市民が
目的	し尿汚泥を安心して処理できる
手段	し尿処理施設の運転管理及び施設の保全と施設整備をします。また、適正な保守点検や施設整備を実施することで、施設の健全性を維持します。
事務内容	収集搬入された生し尿や浄化槽汚泥等を適正に処理できるよう、施設を維持管理・運営します。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	167,463	116,124
事業費	0	159,903	108,564
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	0	159,903	108,564
人件費計	0	7,560	7,560
正規（人）	0.00	1.20	1.20
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		生し尿1,760KL、浄化槽汚泥29,300KL、農業集落排水汚泥664KLを処理しました。	生し尿1,650KL、浄化槽汚泥28,500KL、農業集落排水汚泥660KLを処理します。

事務事業評価シート (2/2)

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282410 ごみゼロ推進課環境クリーンセンター施設係
事務事業 02760 し尿処理施設管理事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
施設の故障によるし尿・浄化槽汚泥搬入停止	回	0.00	0.00	0.00
		0.00	0.00	0.00
法条例規制値を超える放流水の排出	回	0.00	0.00	0.00
		0.00	0.00	0.00

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1 必要性	国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	廃掃法で市が行う事業として定められています。		
2 必要性	市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	下水道を利用していない市民にとって必須な事業です。		
3 有効性	目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	し尿・浄化槽汚泥を適正に処理しています。		
4 効率性	事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	処理に必要な薬剤の適正管理を行っています。		
5 公平性	事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	近隣市と同等の水準です。		

【1次評価結果】	
事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	今後も適切な保守点検や施設整備を実施することで、施設の処理能力や安全性を確保します。

【2次評価結果】	
事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

7頁
平成30年 8月 6日
17時23分58秒

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282410 ごみゼロ推進課環境クリーンセンター施設係
事務事業 02761 ごみ焼却施設等整備事業

所属長名 近藤 一博
担当者 高橋 智祥
電話番号 0566-92-0178

【基本情報】

計画回数	02 第8次安城市総合計画				
5Kの分類	002 環境				
項目（施策）	001 3環境				
施策の方針	004 資源循環とごみ減量の推進				
事務事業	013 ごみ焼却施設等整備事業				
事業期間	平成26年度～平成39年度	14年間			
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト	○	地方創生	
根拠法令等					
備考					

【事業分析】

対象	市民が
目的	将来的にも可燃ごみを安心して処理できる
手段	県ごみ焼却処理広域化計画及び衣浦東部ごみ処理広域化計画に基づく施設整備を進めます。
事務内容	施設整備に必要な各種計画を策定していきます。

【コスト】

（単位：千円）

	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額
トータルコスト	0	717	630
事業費	0	87	0
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	0	87	0
人件費計	0	630	630
正規（人）	0.00	0.10	0.10
その他経費	0	0	0

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
【事務事業活動実績】		先進地視察	衣浦東部ごみ処理広域化計画の改定

事務事業評価シート（2/2）

評価年度 平成29年度 進捗区分 2次評価
所属 0001282410 ごみゼロ推進課環境クリーンセンター施設係
事務事業 02761 ごみ焼却施設等整備事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ごみ処理施設整備基本方針検討打合せの実施	回	0.00 0.00	6.00 6.00	0.00 0.00

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	廃掃法でごみ施設は市町村が設置することとなっています。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	継続的なごみ処理を行う必要があります。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	計画的に事業を進めています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	イニシャルだけでなくランニングコストを考慮していきます。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	他自治体を参考に適切な時期に施設整備を行っていきます。		

【1次評価結果】	
事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	新施設の建設には長期の期間が必要なことから、建設に伴う各種計画の策定期間には十分注意が必要です。

【2次評価結果】	
事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。